

#### ◎平成12年度般公開開催される

第41回科学技術週間(4月17日～23日)筑波地区行事の一環として、去る19日(水)に当所を一般公開いたしました。当日は晴天に恵まれ、642名の方々が当所を訪れました。恒例の「研究紹介コーナー」を玄関ホールに設け、8研究部門の展示・実演などを行いました。調査で使う機器を実際に操作していただいたり、パソコンから衛星データを見ていただくなど、現在の研究に就いていただきました。また、樹木園案内や林業機械のデモンストレーション見学などの催しにも、大勢の方が参加して下さいました。毎年好評の苗木や竹炭のプレゼントに加え、今年はきのこ園株のプレゼントを行い、大変喜ばれました



#### ◎東京国際木工機展に参加

去る4月27日(木)から4月30日(日)まで、有明の東京国際展示場(東京ビッグサイト)で開催された2000東京木工機展(日本木工機械協同組合主催)に参加協力しました。本機展は隔年に行われるもので当所は'94から参加しております。

今年はグッドリビングショー及び国際フワショーと同時開催のかたちをとり24,000人の来場者がありました。当所では林産部門から「クリーンな環境と良い住まいを目指して」をテーマに研究内容をパネル・実物展示で紹介しました。なかでも高振動減衰性木質系面材材料を用いたドアの実物展示及び精油採取装置を用いた精油の抽出実験に多くの方が関心を示していました。また、要覧及び各展示に置かれた説明資料も次々追加するほどであり、各説明者へも熱心な質問が寄せられ、当所の研究に関する関心の高さが示されました



#### ◎農林水産大臣賞受賞

去る4月7日(金)、農林水産省本館7階ホールでの農林水産省創立119周年記念表彰式において、職員功績者として、生物機能開発部の宮崎良文生物活性物質研究室長が「木材と森林浴の快適性・健康増進効果に関する解明」の研究業績により大臣賞を受賞しました。受賞内容は以下の通りです。

木材や森林浴は人間の感覚に心地よさを提供してくれる。この快適性機能を主観評価だけに頼らず脳血流量や血圧など客観的指標で評価するシステムを確立し、木材及び森林の快適性・健康増進効果を検証した。この成果は「木や森の良さ」に科学的根拠を提供し、木材や森林に対する国民の理解促進に貢献するものである。



また、4月26日(水)には、筑波地区平成12年度農林水産省/科学技術庁表彰受賞による功績発表会及び祝賀会が農林水産技術会議筑波事務所において開催されました。

#### ◎インドネシア林業農園大臣一行の訪問

去る3月7日(火)に、イスマイル・インドネシア林業農園大臣、ハルソノ自然保護総局長、トハ林業園企画局長官、イスカンダール林業園研究開発庁長官ほか8名が当所を訪問されました。

大臣一行の来所目的は、筑波研究学園都市の概要、森林総合研究所における組織の概要と研究開発の現状、研究協力に関する意見交換が主なものでした。廣居所長から森林総合研究所の研究概要とインドネシアとの研究協力についての説明があり、森前プロジェクトリーダーからJICA熱帯降雨林研究計画の紹介があり、その後懇談しました。林業農園大臣からはインドネシアに対する森林総合研究所の研究協力を感謝がありました。現在、インドネシアでは過伐、盗伐、農地開発、森林火災が原因で森林減少が深刻になり、森林修復と人民の生活向上が最重要課題となっていること、カーボンストレートも重要で当所の研究協力を希望する旨の話がありました。その後、沢田海外森林環境変動チーム長によるリモセン及びインドネシア火災研究の紹介、耐震実験棟では実験棟及びSST、竹ボード等について中井木材利用部長が説明しました。



2時間弱の時間でしたが、林業農園大臣から充実した訪問であったとの感想をいただきました。

#### ◎ブラジル・アマソナス州知事一行の訪問

外務省の招聘で来日されたブラジル・アマソナス州知事一行が4月17日(月)に当所を訪問されました。

一行はアマソニーノ・アマソナス州知事、ピンセンテ州教育長官、ルイ州知事補佐官と通訳で、来所の目的はブラジルが直面している農林業問題とマナウスで行われているINPAとJICAとのプロジェクトに関する懇談と施設の視察でした。金谷次長から森林総合研究所の研究活動、筑波研究学園都市の概要、ブラジルとの研究協力の説明がありました。また、桜井研究管理官からJICAブラジル・アマゾン研究計画プロジェクトの説明があり、その後懇談にりました。

一行は日本の先端技術を視察した後で、アマソナス州は二次産業だけでなく、アマソンの森林資源が重要で、それらは世界の資源でもあること、マナウスにバイオテクノロジーセンターが建設中であることを話されました。州と当所では今後情報交換を行うことも話されました。

一般公開日を翌日に控え、正面玄関でのパネル・展示物を利用してSSTについて中井木材利用部長が、組織培養について石井組織培養研究室長が、セルロースフィルムについて海老原木材工部長が説明をしました。

1時間20分という短い時間でしたが、熱心に説明を聞かれ、その後JIRCASに向かわれました。



#### ◎学会賞受賞者報告

##### 「第39回林業科学技術振興賞(研究奨励賞)」

受賞者: 木材工部 難燃化研究室 原田寿郎

論文名: 木材の燃焼性及び耐火性能に関する研究

去る3月、原田主任研究官が林業科学技術振興賞(研究奨励賞)を受賞しました。受賞内容は以下の通りです。

木質材料の燃焼性を木材の物理的性質や組織構造、難燃処理方法と関連づけて整理するとともに、その燃焼性や耐火性能の予測手法の開発を進めた。この成果は、性能規定を目指す建築法規の下での木質建築部材の開発並びに設計に資するものである。

##### 「木材学会奨励賞」

受賞者: 木材利用部 物性研究室 久保島吉貴

論文名: 熱処理による楽器用木材の改質

去る3月、久保島研究員が木材学会奨励賞を受賞しました。受賞内容は以下の通りです。

楽器用木材の性能の改善を目的として、温度、時間等様々な条件で熱処理を行い、窒素ガス中での熱処理によって、酸化による性能低下を抑制できることが分かった。さらに、高温乾燥技術の開発を可能にする基礎的知見を得た。

##### 「日本林学会賞」

受賞者: 森林生物部 樹病研究室 山田利博

論文名: 菌の侵入に対するスギ生立木辺材の反応に関する研究 -特に反応障壁の形成について-

去る3月31日、山田主任研究官が日本林学会賞を受賞しました。受賞内容は以下の通りです。

スギ生立木の辺材に菌が侵入したときの防御反応に関して、解剖学的、生化学的に検討し、菌の病原性と辺材の防御反応、材質色の大きさや形状との間の関係を解明した。この成果は、樹木医学の研究推進や、生立木の材質劣化防止への応用に重要な指針を与えるものである。

##### 「日本林学会奨励賞」

受賞者: 森林環境部 水流出管理研究室 野口正二

論文名: 半島マレーシア・フキタレ試験地、熱帯林における降雨流出応答とその応答に対する土壌水分の変動の役割

去る3月31日、野口研究員が日本林学会奨励賞を受賞しました。受賞内容は下記の通りです。

熱帯林の伐採が水源かん養・土砂流出防止機能に及ぼす影響を解明するため、マレーシアにおいて土壌の物理性、降雨流出特性、蒸発散量などの変動を調査・解析した。これらの成果は熱帯地域における森林管理手法の発展に大きく寄与するものである。

##### 「森林利用学会賞」

受賞者: 生産技術部 労働科学研究室 山田容三

論文名: 森林施業に関する生理的負担及び歩行負担に関する研究

去る4月2日、山田主任研究官が森林利用学会賞を受賞しました。受賞内容は以下の通りです。

森林作業に従事する人の労働負担を定量的に解析する手法を開発し、急傾斜地の通勤用に普及している林業用のモノレールによる歩行負担の軽減効果と、その経済的効果の分析に応用した。この成果は、労働環境の改善や機械導入の効果を評価する新たな方法を提示するものである。

##### 「森林立地学会論文賞」

受賞者: 森林環境部 地質研究室 大貫靖浩

論文名: Relationship between soil erosion and physical properties of soils at zero-order basins in Okinawa, Japan

(沖縄の0次谷における土壌侵食と土壌の物理特性との関係)

去る4月2日、大貫主任研究官が森林立地学会論文賞を受賞しました。受賞内容は以下の通りです。

沖縄における森林伐採後の土壌侵食の危険度を評価するために、微地形単位と土壌物理特性との関係を検討した結果、赤色土・黄色土は侵食されにくい、表層グライ系赤黄色土は森林伐採後侵食される危険性が高いことが明らかになった。この成果は、森林立地研究の進歩発展に大きく寄与するものである。

##### 「第59回科学技術庁注目発明賞」

受賞者: 木材工部 耐熱処理研究室 木口 実

特許名: 耐候性木質材とその製造方法ならびに耐候性木質材を使用した木質用材

去る4月18日、木口主任研究官が第59回科学技術庁注目発明賞を受賞しました。受賞内容は以下の通りです。

木材の色調を屋外でも長期間保たせるために、紫外線吸収剤などの光安定化剤をグラフト重合により木材表面の化学成分と直接結合させることによって、高い耐候性を付与する技術を開発した。これにより、木材のエクステリア市場への需要拡大が期待できる。